

## NANIWA 52 号

**ここまで甘く見られては要請の仕方も変えざるを得ません。今回は徹底的にこだわります！**

前回の要請で対応した小森氏は「確かに要請書を受け取りました。必ず本社に伝えます」と約束していたので、それを受けて「回答を聞くとともに、あらためて要請に行く」旨の話しをしました。そのやり取りです。

電話にて(3 / 7)

組合「先般の要請についての回答を3月15日に聞きに行きたい。今回は会議室を用意してちゃんと対応してください」。

**小森氏「今回もまた、不愉快な思いをさせる対応になります」。**

不愉快な対応が予測されるならこちらも黙ってはいられません。要請に行く前からこの返答はいったいなにを意味するのでしょうか。本社の指示だというなら本社のだれが指示して、だれが回答をしなかったのか、全員の前で説明してもらわざるをえません。

電話の続き

組合「3月20日も京阪神の要請行動を行う予定だ。直接各出先支店に電話したらいいのですか？」

**小森氏「私がすべて担当します」。**

いったいこれはどういうことなのだろう？一緒に私たちの行動についてくる気なのだろうか？

要請に対して筋道をたてて電話しているにもかかわらず、上記の対応を予定しているとはあきれて物が言えません。これではうえのものでないといっこうに話しが進みません。玄関先で走り回る茶坊主と一緒にではないか。今回についてはこちらも徹底的にこだわらざるをえません。

ひとりはみんなのために みんなはひとりのために  
全損保日勤外勤支部大阪分会